

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
人間の尊厳と自立	(通信)・演習・実技)	
通信の回数	時間数／問題数／点数	必修・選択
1回	5時間／10問／20点	必修
[到達目標] ○尊厳の保持、自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。 [授業の目的・ねらい] ○介護における基本的理念を理解する。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第1巻／第1章／人間の尊厳と自立(P2～P48)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第1巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
社会の理解Ⅰ	(通信 ・演習・実技)	
通信の回数	時間数／問題数／点数	必修・選択
1回	5時間／14問／24点	必修
[到達目標] ○介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 [授業の目的・ねらい] ○介護保険制度の目的、しくみ、サービスの内容、専門職の役割を理解する。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第1巻／第2章／介護保険制度の理解(P50～P99)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第1巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
社会の理解Ⅱ	(通信 ・演習・実技)	
通信の回数	時間数／問題数／点数	必修・選択
1回	30時間／31問／51点	必修
[到達目標] ○家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。 ○地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。 ○社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。 ○障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 ○成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。 [授業の目的・ねらい] ○地域で暮らす個人や家族について、人間の生活と福祉の視点からとらえたうえで、社会保障制度・障害者総合支援法等の諸制度について理解する。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第1巻／第3章／社会のしくみの理解(P102～P270)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第1巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
介護の基本 I	(通信)・演習・実技)	
通信の回数	時間数／問題数／点数	必修・選択
1回	10時間／13問／23点	必修
[到達目標] ○介護福祉士制度の法的な定義や義務をふまえ、介護予防や看取り、災害時等における介護福祉士の役割を理解している。 ○個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 ○介護従事者の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。 [授業の目的・ねらい] ○尊厳の保持のもと自立に向けた介護を展開するために、介護福祉士の職業倫理を軸としながら介護についての理解の幅を広げる。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第2巻／第1章／介護福祉士と介護の考え方(P2～P60)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第2巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本Ⅱ	授業の種類 (通信・演習・実技)	授業担当者
通信の回数 1回	時間数／問題数／点数 20時間／21問／36点	必修・選択 必修
[到達目標] ○介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握する。 ○チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得する。 ○リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得する。 ○介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得する。 [授業の目的・ねらい] ○介護を必要とする高齢者や障害者などの生活理解をふまえたうえで、介護実践のあり方や多職種や地域との連携、介護における安全とリスクなどについて理解する。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第2巻／第2章／介護福祉士による介護実践(P62～P128)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第2巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
コミュニケーション技術	(通信)・演習・実技)	
通信の回数	時間数／問題数／点数	必修・選択
1回	20時間／20問／32点	必修
[到達目標] ○本人・家族との支援関係を構築し、意思決定を支援することができる。 ○利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 ○チームマネジメント(組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等)に関する知識を理解し、活用できる。 ○状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。 [授業の目的・ねらい] ○相談援助の技術と合わせて、介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの技法を理解する。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第2巻／第3章／コミュニケーション技術(P130～P218)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第2巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅰ	(通信)・演習・実技)	
通信の回数	時間数／問題数／点数	必修・選択
1回	20時間／27問／47点	必修
[到達目標] ○生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ○ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ○自立に向けた生活支援技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を習得している。 ○居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解している。 [授業の目的・ねらい] ○ICFの理解を前提としながら、ボディメカニクスの活用まで含め、介護の基本技術と住環境の整備や福祉用具の活用について把握する。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第2巻／第4章／自立に向けた生活支援技術の基本(P220～P358)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第2巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ⅱ	(通信 ・演習・実技)	
通信の回数	時間数／問題数／点数	必修・選択
1回	30時間／32問／44点	必修
[到達目標] ○「環境整備」「移動・移乗」「食事」「入浴・清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「休息・睡眠」「人生の最終段階における介護」「福祉用具等の活用」のそれぞれについて、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる。 [授業の目的・ねらい] ○利用者の心身の状態に合わせた介護の基本技術の展開と福祉用具の活用や住環境の整備などについて、実践を念頭に理解する。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> ・第2巻／第5章／利用者の心身の状況に応じた生活支援技術(P360～P473)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第2巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅰ	(通信)・演習・実技)	
通信の回数	時間数／問題数／点数	必修・選択
1回	20時間／21問／42点	必修
[到達目標] ○介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 ○介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 ○チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解している。 [授業の目的・ねらい] ○介護過程の流れについてひととおり理解したうえで、ケアマネジメントのもと、チームで展開する際のポイントまで把握する。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第3巻／第1章／介護過程の基礎的理解(P2～P50)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第3巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅱ	授業の種類 (通信 ・演習・実技)	授業担当者
通信の回数 1回	時間数／問題数／点数 25時間／12問／100点	必修・選択 必修
[到達目標] ○情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。 [授業の目的・ねらい] ○個々の利用者の障害特性(心身状態)や生活の場(環境的側面)をICFの視点からとらえ、生活課題を明らかにしたうえで介護計画(個別援助計画)を作成していく。そうした介護過程の展開の実際を、事例による疑似体験もふまえて理解する。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第3巻／第2章／介護過程の展開の実際(P52～P129)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第3巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅲ	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実技)	授業担当者
授業の回数 5回	時間数 45時間	必修・選択 必修
[到達目標] ○実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。 ○介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種・他機関との連携を行うことができる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。 [授業の目的・ねらい] ○介護過程について十分に理解したうえで、原理・原則を踏まえた知識と技術を総合的に活用しながら、一連の過程を利用者の心身の状況に応じて実践したものを評価できる。 [授業全体の内容の概要] 介護過程の基礎知識と応用 介護過程演習・3つの事例を用いたグループワーク・ロールプレイ(介護過程を展開する基本視点に基づくアセスメント、個別援助計画書の作成を行い、利用者主体の自立に向けた介護実践) テキスト・プリントの3事例に基づいた介護技術の評価 筆記試験実施、解説 <テキスト該当ページ> 第3巻／第3章／介護過程の展開の実践(P132～P224) [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針] 【介護過程の展開】 ・1日目(9時間) 介護過程Ⅰ、Ⅱの振り返り 介護過程の基礎知識と応用(ケアマネジメントと介護過程、介護の専門性を活かした介護過程、介護職による介護過程の実践、ケアマネジャーによるケアマネジメント過程の展開、介護過程を展開する基本視点) 介護におけるコミュニケーション技術(コミュニケーションの基本的理解) ・2～4回目(各9時間) 演習・事例を用いたグループワーク・ロールプレイ(3事例のアセスメント、個別援助計画書作成、実施および評価と自立に向けた介護実践) 【知識等の習得度の評価、介護技術の評価】 ・5日目(9時間) 筆記試験実施、解説 3事例に基づいた介護技術の評価(評価項目を設け習得度を点数化し技術の評価を行う)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第3巻)』 その他、適宜プリントを配布		[評価の方法および基準] 実技試験 70点以上で合格 筆記試験 70点以上で合格 実技・筆記試験両方の合格により科目の修了を認定する。 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅠ	(通信・演習・実技)	
通信の回数	時間数／問題数／点数	必修・選択
1回	20時間／24問／38点	必修
[到達目標] ○介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得している。 [授業の目的・ねらい] 移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱・整容・口腔清潔、睡眠に関連するからだのしくみなど、介護職が支援を行う際に前提となる身体の機能と構造について理解する。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第4巻／第1章／介護の関連するからだのしくみ(P2～P45)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第4巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅡ	(通信・演習・実技)	
通信の回数	時間数／問題数／点数	必修・選択
1回	60時間／56問／72点	必修
[到達目標] ○人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。 ○生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している。 ○身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察・アセスメント、関連する職種との連携が行える。 [授業の目的・ねらい] ○人間の基本的な欲求や学習・記憶、ボディメカニクス等、心身の構造と機能、特徴を把握したうえで、アセスメントや観察、他職種との連携などを駆使しながら展開する介護についての理解を深める。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第4巻／第2章／心身の構造・機能と介護における観察のポイント(P48～P180)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第4巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解Ⅰ	授業の種類 (通信・演習・実技)	授業担当者
通信の回数 1回	時間数／問題数／点数 10時間／12問／22点	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ○老化にともなう心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○老化にともなう身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 [授業の目的・ねらい] ○老化によるこころとからだの変化の特徴と日常生活への影響について理解する。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第4巻／第3章／老化に伴うこころとからだの変化(P182～P219)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第4巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
発達と老化の理解Ⅱ	(通信)・演習・実技)	
通信の回数	時間数／問題数／点数	必修・選択
1回	20時間／34問／48点	必修
[到達目標] ○ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 ○老年期の発達課題、心理的な課題(老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。 ○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。 [授業の目的・ねらい] ○発達の定義・段階・課題等を踏まえたうえで、老年期に特有の心理的課題や症状・疾病等の支援の留意点について理解する。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第4巻／第4章／老年期の発達、成熟と健康(P222～P292)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第4巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
認知症の理解 I	(通信・演習・実技)	
通信の回数	時間数／問題数／点数	必修・選択
1回	10時間／15問／26点	必修
[到達目標] ○認知症ケアの取組みの経過をふまえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 ○認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ○認知症の人やその家族に対するかかわり方・支援の基本を理解している。 [授業の目的・ねらい] ○今日的な認知症ケアの理念をベースに、生活上の障害や心理・行動の特徴をふまえつつ、認知症の人や家族に対するかかわり方の基本を理解する。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第4巻／第5章／認知症の基礎的理解(P294～P329)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第4巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
認知症の理解Ⅱ	(通信)・演習・実技)	
通信の回数	時間数／問題数／点数	必修・選択
1回	20時間／28問／43点	必修
[到達目標] ○代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 ○認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念にもとづいた支援ができる。 ○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 [授業の目的・ねらい] ○認知症に対する一般的な医学的知識を有したうえで、家族や社会関係まで含めてアセスメントし、状況に応じた支援を行っていくことを理解する。その際には、地域のサポート体制を活用することも念頭に置く。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第4巻／第6章／認知症の医学的理解と支援の実際(P332～P390)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第4巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
障害の理解 I	(通信・演習・実技)	
通信の回数	時間数／問題数／点数	必修・選択
1回	10時間／16問／26点	必修
[到達目標] ○障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史をふまえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 ○障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ○障害のある人やその家族に対するかかわり方・支援の基本を理解している。 [授業の目的・ねらい] ○今日的な障害者福祉の理念のもと、さまざまな障害ゆえの生活上の不具合や心理・行動の特徴をふまえ、当事者や家族に対する支援の基本を理解する。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第4巻／第7章／障害の基礎的理解(P392～P441)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第4巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 障害の理解Ⅱ	授業の種類 (通信・演習・実技)	授業担当者
通信の回数 1回	時間数／問題数／点数 20時間／20問／34点	必修・選択 必修
[到達目標] ○さまざまな障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。 ○障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 [授業の目的・ねらい] さまざまな障害についての医学的知識の把握を前提に、当事者の障害や環境についてアセスメントを行い、地域のサポート体制も活用しつつ支援していくことを理解する。 [授業全体の内容の概要] テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第4巻／第8章／障害の医学的理解と支援の実際(P444～P491)		
[使用テキスト] 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第4巻)』		[評価の方法および基準] 添削課題評価70%以上で合格 (70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 医療的ケア	授業の種類 (通信・ 演習 ・実技)	授業担当者
通信の回数／演習の回数 1回／1回	時間数／問題数／点数 通信:50時間／45問／86点、演習:9.5時間	必修・選択 必修
【到達目標】 【通信】 医療的ケア実施の基礎 ○医療的ケアを安全に実施するための基礎的知識について理解している。 ○医療的ケアに関連する法制度や倫理等を理解している。 ○感染予防、安全管理体制等についての基礎的知識について理解している。 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順) ○呼吸のしくみとはたらき、吸引を受ける人の気持ちの理解など、喀痰吸引の基本的知識を理解している。 ○喀痰吸引における急変・事故発生時の対応などについて理解している。 ○喀痰吸引の実施手順(口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部)を理解している。 経管栄養(基礎的知識・実施手順) ○消化器系のしくみとはたらき、経管栄養を受ける人の気持ちの理解など、経管栄養の基本的知識を理解している。 ○経管栄養における急変・事故発生時の対応などについて理解している。 ○経管栄養の実施手順(胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養・経鼻経管栄養)を理解している。 【演習】 ○喀痰吸引のケア実施の流れ(準備から実施、報告・記録まで)について、評価票に基づき、口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部をそれぞれ5回以上行い、評価を得る。 ○経管栄養のケア実施の流れ(準備から実施、報告・記録まで)について、評価票に基づき、胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養をそれぞれ5回以上行い、評価を得る。 ○救急蘇生法について、心肺蘇生の流れを、1回以上行う。 【授業の目的・ねらい】 【通信】○制度や倫理等をふまえた医療的ケアの基礎的知識について把握したうえで、急変時や事故発生時の対応などもふまえた喀痰吸引と経管栄養の実施手順について理解する。 【演習】○喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生法について、演習を通じて一連の流れ(手順)を1人で実施できるよう修得する。 【授業全体の内容の概要】 【通信】 テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅課題を解答し、評価する。 <テキスト該当ページ> 第5巻／第1章／医療的ケア実施の基礎(P2～P90)・第5巻／第2章／喀痰吸引(P92～P157)・第5巻／第3章／経管栄養(P160～P216) 【演習】 喀痰吸引の基礎的知識と実施手順の確認 シミュレーターによる喀痰吸引の実技演習(口腔、鼻腔、気管カニューレ内部吸引を各5回以上) 経管栄養の基礎的知識と実施手順の確認 シミュレーターによる経管栄養の実技演習(胃ろう又は腸ろう、経鼻経管栄養を各5回以上) 救急蘇生法演習(1回以上) <テキスト該当ページ> 第5巻／第4章／演習(P208～P271) 【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針】 【演習】 喀痰吸引及び経管栄養の基礎的知識と実施手順の確認、シミュレーターによる実技演習 救急蘇生法演習		
【使用テキスト】 中央法規出版株式会社 『介護福祉士実務者研修テキスト(第5巻)』	【評価の方法および基準】 【通信】 添削課題評価70%以上で合格(70%未満の場合は合格するまで繰り返し提出) 【演習】 喀痰吸引／口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引それぞれの演習を5回以上を実施した上で、評価票の全ての項目についての指導講師の評価結果が評価基準で示す手順どおりに実施できているとなった場合に修了を認める。なお、修了が認められなかった者については、再度、演習の全課程を受講させる。 経管栄養／胃ろう又は腸ろう・経鼻、それぞれの演習を5回以上を実施した上で、評価票の全ての項目についての指導講師の評価結果が評価基準で示す手順どおりに実施できているとなった場合に修了を認める。なお、修了が認められなかった者については、再度、演習の全課程を受講させる。	